

## 不妊治療の今

目指すゴールは、  
子どもと健康に暮らす未来。

「不妊症」とは病名ではなく、ある一定期間（日本では2年）、性生活を行っているにもかかわらず、妊娠しない状態を指す言葉です。現在、日本の婚姻件数は年間70万〜80万前後。そのうちの10%、つまり毎年7万〜8万ものカップルが不妊症であるといわれています。

今回はこの不妊症について、東京歯科大学市川総合病院・リプロダクションセンター副センター長の吉田丈児医師と、同病院産婦人科部長の高松潔医師にお話を伺いました。

### 時代背景を映し増加した不妊症

子どもができないという場合、とかく昔から女性に責任があるように思われがちでした。しかし実際には、原因が女性にある場合と男性にある場合の割合は、ほぼ同じです。

ですから不妊治療を始めるなら、早い段階から男性も一緒に受診していただくことが重要です。

不妊症が増えた理由としては、女性の社会進出により、結婚年齢が遅くなったことや、育児と仕事を両立させる環境が整っていないため、晩産化が進んだことが挙げられます。



東京歯科大学市川総合病院  
リプロダクションセンター  
副センター長  
産婦人科部長  
吉田 丈児 医師  
高松 潔 医師

### 「不妊のストレス」への理解が必要

不妊症の原因は、女性は子宮や卵管の問題や卵巣機能の異常など、男性は精巣機能に問題があり、活発な精子を十分につくることができない、ということが最も多いようです。

間接的な要因としては、糖尿病などの疾患のほか、太り過ぎも排卵障害の原因となりますし、タバコやストレスも危険因子となります。

また、女性は年齢と共に、**妊孕性**（妊娠しやすいさ）が顕著に低下することなどから、不妊そのものが強いストレスとなってしまうことも深刻な問題です。

抑うつは排卵に悪影響があるため、妊娠へのプレッシャーを与えるなど、ストレスをため込ませてしまわないよう、周囲の理解とサポートが必要です。

### 段階的に進めていく不妊治療

検査で特別な異常が見つからない限りは、次のようにより自然に近い治療法から、段階的に高度な治療にトライしていく方法が一般的です。

#### 1 タイミング療法

排卵日を正確に予測して夫婦生活の夕

タイミングをアドバイスし、排卵のチャンスを逃さないよう指導します。

## 2 人工授精 (AIH)

採取しておいた精液を、細い管を使って、女性の子宮の中に直接注入する方法です。

## 3 体外受精—胚移植 (IVF—ET)

女性の卵子を体外に取り出して、採取しておいた精子と受精させ、受精卵を女性の子宮に戻す方法です。

## その他の生殖医療

薬によって排卵を誘発する卵巣刺激や、卵管通過障害や子宮内膜症がある場合は、それを治す手術などが行われる。

## 特殊な生殖医療

### ● 非配偶者間人工授精 (AID)

夫以外の精子をつかう人工授精。夫が無精子症で全く精子がない時、またはそれに近い条件のときに適応。

### ● 治療前精子凍結

男性が悪性腫瘍などのため抗がん剤などの治療を行う際、精巣の機能が障害される前に精子を採取し、冷凍保存しておく方法。

※千葉県内で行っているのは、東京歯科大学市川総合病院リプロダクショナルセンターのみ。

## 妊娠の機会を逃さないために

有名人の高齢出産が華やかに報道される現代、世間では高齢での妊娠・出産も容易になったと錯覚してしまう傾向があるようです。

しかし、女性の排卵は今も昔も年にせいぜい12回。妊娠のチャンスは年間12回しかないのですから、元来そうそう思い通りにできるものではありません。迷っているうちに妊娠の確率は低下し、逆に、治療を始める時期が早いほど妊娠の確率は高くなります。

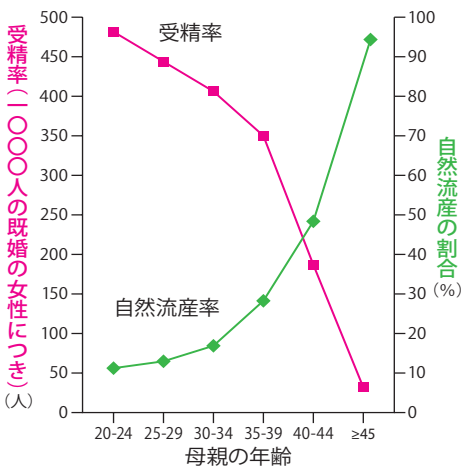
不妊治療のゴールは妊娠ではなく、無事に赤ちゃんを出産し、家族揃って健やかに

## 東京歯科大学市川総合病院 リプロダクションセンターについて

女性不妊担当の婦人科と男性不妊担当の泌尿器科、さらに遺伝相談担当の小児科が一つのチームを組むことで、夫婦と一緒に治療に取り組めるシステムが整っている。

我が国2例目の体外受精—胚移植 (IVF-ET) による妊娠・分娩に成功と、本邦初の凍結受精卵による妊娠・分娩の成功という歴史を持ち、生殖医療分野で有数の実績がある。

## 加齢に伴う受精率・流産率の変化



不妊治療は高度に進歩しています。ただ高齢になるほど受精率が顕著に低下し、流産を始めとして死産や胎児の染色体異常など、リスクが上昇する点は変わっていないことを理解しておく必要があります。

(出典：Heffner LJ, N Engl J Med, 2004)

## 東京歯科大学市川総合病院 リプロダクションセンター 受診患者初回来院平均年齢 (女性)

対象年	平均年齢
2002年	33.3歳
2003年	33.4歳
2004年	33.7歳
2005年	33.5歳
2006年	33.9歳
2007年	34.0歳
2008年	34.5歳
2009年	34.4歳
2010年	35.2歳
2011年(参考)	35.2歳

※対象件数4162件

※病名開始日を初回来院日として計算

生きていくことです。ですから、ご夫婦がよく理解し合い、互いの心と体をいたわり合いながら治療していくことが何より大切です。ぜひ、ご夫婦で健康診断を受けるようなつもりで、早めに専門医の診察を受けていただきたいと思います。